

世界遺産「富士山」

未来への「遺産」として残すために



クラシック歌手
本岩孝之さん
もと いわ たか ゆき

熊本県八代市出身、甲府市在住。東京藝術大学大学院修士課程修了。オペラやオーケストラのソリストとしてはもちろん、数多くのリサイタルやコンサートにも出演。バスの音域から、バリトン、テノール、カウンターテナーまで、4オクターブにわたる驚異的な音域で幅広いレパートリーを歌いこなす。日本からオペラの名作をという思いが実現し、来年3月には、コラニー文化ホールで「MABOROSI〜オペラ源氏物語」を公演予定。

今年6月22日、世界遺産として登録が決定された「富士山」。
古より信仰の対象となり、数多くの芸術を生み出した富士山の価値を表す構成資産には、その山体だけでなく、周囲にある神社や登山道、風穴、溶岩樹型、湖沼などがあります。
今回は、自らも富士山に魅せられ、登録報告会で『富士に寄せて〜六根清浄』を熱唱したクラシック歌手・本岩孝之さんが、構成資産を訪れ、富士山の価値を再確認しました。



▲かつての富士講の様子(金鳥居前にて) 写真集「山梨百年」山梨日日新聞社提供

富士講の祈りを今に伝える 旧外川家住宅

最初に訪ねた旧外川家住宅は、二五〇年近く前に建てられた御師の家です。御師は、富士登拝に訪れる富士講の人々を迎え入れ、食事や宿泊など一切の世話をする一方、布教活動を行うなど江戸時代に隆盛を極めた富士山信仰を支え続けました。



▲旧外川家住宅で、当時の間取りについて説明を聞く

御師住宅(旧外川家住宅)

御師住宅の多くは短冊状を成し、表通りに面して導入路を設け、敷地を流れる水路の奥に住宅兼宿坊が建てられています。



富士講の指導者である「先達」のみが行を許されたという式台玄関で、ボランティアガイドの外川和美さんに迎えられた本岩さん。屋内に入ると、食器や衣装、お札などといった富士講ゆかりの品々や当時の様子を伝える写真をじっくりと眺めながら、外川さんの案内に耳を傾けています。
富士講の人々は、どのように祈りをささげたのか、御師はどのような役割を担っていたのか、聞けば聞くほど興味が深まるようである。当時の人々は、今とはまったく違う思いで富士山に登ったのですね。こうして信仰の歴史に触れたことで、富士山の姿が、より一層神々しく見えてきました」と神妙な面持ちです。



▲北口本宮富士浅間神社 本殿

北口本宮富士浅間神社境内にある 登山鳥居は富士山頂へと続く

続いて訪れたのは、富士山信仰の聖地である北口本宮富士浅間神社。富士講の人々は、御師の家を出発すると、まずこの神社に参拝し境内にある登山鳥居から富士山頂を目指しました。

数年前に初めて参拝した折、霊験あらたかな雰囲気魅せられ、以来、毎月一度は参拝し周辺散策を楽しむという本岩さん。鬱蒼とした参道を歩きながら大きく息を吸い込むと、「この神社に来ると、気持ちが落ち着き、心が洗われるんです」。迷うことなく歩を進め本殿に参拝した後は、横に聳える樹齢千年以上の御神木へと向かいます。「これは、僕が歌わせてもらっている『富士に寄せて』の歌詞にも出



▲吉田口登山道の起点となる登山鳥居

てくる富士太郎杉。近くに居ると、ものすごい生命力を感じます」。登山鳥居へ足を延ばした本岩さん、「富士講の人々は神聖な心持ちで、ここから富士山へと向かったのですね」と、視線は鳥居から山頂へと続く登山道を見つめていました。



北口本宮富士浅間神社

富士山への遥拝所を起源とし、古代には鳥居が建立され、16世紀半ばには浅間神社の社殿が整っていました。1730年代に富士講の指導者である村上光晴の寄進によって建造物群の造営修復工事が行われ、現在にみる境内の景観の礎が形成されました。



▲富士登山の情景が織り込まれた曲「富士に寄せて〜六根清浄」の歌詞に出てくる御神木「富士太郎杉」



葛飾北斎「富嶽三十六景」《凱風快晴》県立博物館蔵



葛飾北斎「富嶽三十六景」《甲州三坂水面》県立博物館蔵



葛飾北斎「富嶽三十六景」《神奈川沖浪裏》県立博物館蔵



葛飾北斎「富嶽三十六景」《諸人登山》県立博物館蔵
当時の富士講の様子が描かれている

三十六景といながら、実は46枚から成るこの作品の魅力は、眺める場所や季節、時間、気象、視点などによってさまざまに姿を変える富士山を描き出しているところにあります。そして、他に類を見ない巧みな構図や、生き生きとした二つのモチーフの描写が、それらに命を吹き

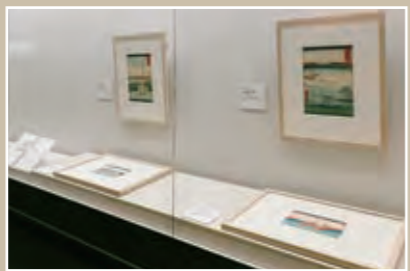


歌川広重「富士三十六景」《甲斐御坂越》県立博物館蔵

三十六景といながら、実は46枚から成るこの作品の魅力は、眺める場所や季節、時間、気象、視点などによってさまざまに姿を変える富士山を描き出しているところにあります。そして、他に類を見ない巧みな構図や、生き生きとした二つのモチーフの描写が、それらに命を吹き



県立博物館 館吹市御坂町成田1501-1
TEL 055-261-2631
FAX 055-261-2632



常設展示室では、10月23日から12月13日まで「富士三十六景」(歌川広重)の一部を展示します。



富士山と芸術の関わりについて話す
県立博物館 近藤暁子学芸員

「芸術の源泉」 浮世絵に描かれた富士山の魅力

富士山を描いた浮世絵として、真っ先に挙げるべきは、葛飾北斎の「富嶽三十六景」です。それまでは役者絵に代表される人物画が主流だった浮世絵に、北斎はこのシリーズによって、風景画というジャンルを確立しました。

歌川広重をはじめとする後進の浮世絵師や近代日本の画家、さらには西洋の芸術家にまで影響を与えたことを考えると、富士山という山が芸術家の創作意欲をかき立てる特別な山であるということも、また、言えるのではないかと考えられます。作曲家のドビュッシーも富嶽三十六景の一つ「神奈川沖浪裏」を部屋に飾り、そこから着想を得て交響詩「海」を作曲したといわれています。



▲船津胎内樹型内 溶岩の床の表面は、長年の信者の参拝により滑らかになっている

船津胎内樹型で
穢れなき身体に生まれ変わる

本岩さんが次に向かったのは、船津胎内樹型。937年の富士山噴火の際に流出した溶岩が創り出した樹型の一つです。富士講信者は、1673年、この樹型の内部に浅間大神を祀りました。中に入った途端「本当の胎内にいるようですね」と驚いた様子の本岩さん。視線の先には、溶岩が肋骨状に波打っています。さらに進むと、母の胎内、父の胎内と呼ばれる場所があり、富士講の人々は、登拝前にこの胎内に入つて生まれ変わり、穢れのない身体になって富士山に登りました。

「当時は真っ暗だったのでしょうから、この中に入るには、ものすごい勇気が必要だった本岩さん。最後は、先人たちの祈りに思いをはせつつ、北口本宮富士浅間神社の登山鳥居を起点とする吉田口登山道の「馬返」まで足を延ばしてみることにしました。トンネルのように連なる緑の木々の下をさっそうと歩きながら、「気持ちがいいですね。ここは草山と木山の境界線。ここより上は、聖域となるそうですね。富士講の人々が目指したもので目にした世界を、僕も体感してみたくなりました」。信仰の歴史に触れたことで、世界遺産となった富士山への思いは増すばかりです。

富士山信仰に触れて

御師の家から富士講の足跡をたどってきた本岩さん。最後は、先人たちの祈りに思いをはせつつ、北口本宮富士浅間神社の登山鳥居を起点とする吉田口登山道の「馬返」まで足を延ばしてみることにしました。トンネルのように連なる緑の木々の下をさっそうと歩きながら、「気持ちがいいですね。ここは草山と木山の境界線。ここより上は、聖域となるそうですね。富士講の人々が目指したもので目にした世界を、僕も体感してみたくなりました」。信仰の歴史に触れたことで、世界遺産となった富士山への思いは増すばかりです。



船津胎内樹型

溶岩が流れ下る際に樹木を取り込み固まり、燃え尽きた樹幹の跡が空洞として残った洞穴。吉田口登山道に近いことから、富士講信者に重要視されました。



もともと美しくありがたい存在の富士山ですが世界遺産になったことで、さらに世界中の人々が注目し、興味を持つこととなるでしょう。

山梨の人にとっても、富士山も含めた自然や文化の素晴らしさをあらためて認識するとともに富士山を、山梨を、誇りに感じるきっかけになってくれたらと願っています。

本岩 孝之



『富士山憲章』(行動規範)

- 1 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 1 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 1 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 1 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 1 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

平成10年11月18日 山梨県 静岡県



▲富士山レンジャー 荒井みずきさん(左)と中島紫穂さん

富士北麓地域を守る富士山レンジャー

富士山を含む富士北麓の自然を守るために、平成17年6月に設置された富士山レンジャー。現在、4名が常駐し活動しています。今年4月から仲間入りした中島紫穂さんと荒井みずきさんに、お話を伺いました。

どのような活動を?

富士北麓地域を巡回パトロールし、国立公園の利用マナーの普及・啓発活動や、不法投棄・不法伐採などの監視を行い、自然保護に努めています。また、学校や企業・団体を対象に、環境教育も行っています。

世界遺産になったことで、活動に変化はありましたか?

登山者の増加が見込まれたため、五合目の登山道の入口に臨時富士山登山案内所を開設し、週末と休日前に安全登山のための啓発活動を行いました。

登山客を見ていて思うことは?

富士山は国立公園内の特別保護地区なので、禁止されていることや、許可が必要なことがあります。先日も私たちレンジャーの目の前で小さな溶岩を拾って、うれしそうにリュックに入れている方がいたので、即座に注意しました。悪気はないのですが、それだけにマナーを周知する必要性を感じます。

富士山レンジャーからのメッセージ!

多くの人の協力や尽力によって、世界に認められた富士山。この素晴らしい自然を守り続けるには、一人ひとりの意識が何よりも大切です。

世界の宝を後世へ継承するために

富士山は、山梨・静岡両県にまたがり、信仰や芸術に関わる文化財が広い範囲に点在しています。このため、これらの文化財を含む富士山全体を、一体のものとして保護・保全する方針や仕組みを示した「包括的保存管理計画」を平成24年1月に策定しました。この計画を着実に実践することによって、私たちは、富士山を今以上に世界遺産としてふさわしい状態で、未来に引き継ぐことができるのです。

世界遺産登録はゴールではなく、スタートです。それは、世界遺産に登録されたことが、その価値を次の世代へ継承するための責任を負ったことを意味するからです。

県民の皆さんも一人ひとり高い保全の意識を持ち、人類共有の宝物となった「富士山」を守り続けていきたいと思います。

山梨県富士山世界遺産センター(仮称)を整備

富士山の保存管理や、富士山を訪れる人々に富士山の価値を理解してもらうための拠点となる「山梨県富士山世界遺産センター(仮称)」。

平成28年度中の完成を目指し、富士ビジターセンター敷地内に整備します。



富士ビジターセンターでは、世界遺産「富士山」を展示しています

登録までの歩み

- 【平成19年1月】日本の世界遺産候補を示す世界遺産暫定リストに掲載
- 【平成23年7月】山梨・静岡両県合同会議が登録推薦書原案を文化庁に提出
- 【平成23年9月】政府が推薦書(暫定版)をユネスコ(国連教育科学文化機関)に提出
- 【平成24年1月】政府が推薦書をユネスコに提出
- 【平成24年8月~9月】イコモス(国際記念物遺跡会議)の専門家による現地調査
- 【平成25年4月】イコモスによる評価結果および勧告
- 【平成25年6月】世界遺産委員会で登録が決定

登録決定後の喜びの様子
カンボジアにて



▲世界遺産登録決定後の記者会見で、握手し喜びを分かち合う横内知事と川勝静岡県知事(左端) 近藤文化庁長官(当時。右から2人目)、木曾ユネスコ日本国特命全権大使(右端)



▲登録決定の喜びをかみしめながらサンキュースピーチをする横内知事。世界の宝となった富士山をしっかりと保全していくことを誓った



▲決定直後、満面の笑みで会場の声援に応える横内知事と川勝静岡県知事

平成17年12月の、山梨・静岡両県および関係市町村からなる「富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議」発足から7年半。幾多のハードルを着実に乗り越え、関係者の努力が実を結び、今年6月22日「富士山」が世界遺産として登録決定されました。

カンボジア・プノンペンで開催された第37回ユネスコ世界遺産委員会では、日本を除く20カ国中19カ国の委員が発言し「富士山がこれまで登録されていなかったのはむしろ驚きである」「象徴的な資産である」など、世界にふたつとない価値を持つ「富士山」を高く評価しました。

「富士山」信仰の対象と芸術の源泉

—登録までを振り返って—

県立図書館で行った登録報告会



▲6月27日の登録報告会では、クラシック歌手・本岩孝之さんが「富士に寄せて」を熱唱。県内の高校生と園児も「ふじ山」を合唱し、世界遺産登録をお祝いした

富士山の保全活動に協力を呼びかけるCMを、県HP「山梨インターネット放送局」で配信しています。

【問い合わせ先】富士山保全推進課 TEL 055-223-1316 FAX 055-223-1781